

東京工業大学

公文書室だより

No. 8 (2023年3月31日発行)

令和4(2022)年度の出来事から

公文書室長 広瀬茂久

COVID-19終息の兆しの中、例年より早めの桜にWBCの優勝が重なり、明るい気持ちで年度末を迎えておられることと思います。10兆円規模の大学ファンドによる国際卓越研究大学への応募締め切りに追われている関係者には特別な年度末かもしれません。私も10年に及んだ任期を終えるということで、特別な気持ちで年度末を迎えましたが、引継ぎを兼ねてしばらく継続雇用されることになりました。東京医科歯科大学との統合(2024年10月)後の「東京科学大学」の公文書室のあり方についても急いで具体案をまとめる必要がありますので、すでに統合された大学のお話を伺い参考にしたいと考えています。

政治やマスコミ界も話題が豊富でした。ある新聞のコラムニストが首相秘書官の差別発言を厳しく批判し、勢い余って「…多様性を尊重するどころか、性的少数者を敵視している。公僕たる官僚が、である」と書いてしまいました。公僕のつもりで仕事をしている人は多いと思います。そういう人々には「上から目線」のように響いたのではないのでしょうか。感情的にならないとモノは言えないし書けません、感情的になりすぎてもいけない気がします。日ごろ、感情に乏しい公文書を扱うことが多いせいか、「それこそ差別発言では？」と気になった一文でした。以下では、文ではなく印象深かった人との出会いを中心に本年度の公文書室の活動を紹介します。

1. 大正期に本学で学んだインドからの留学生

グルチャラン シン
Gurcharan Singh (1898-1995) の
ドキュメンタリー・フィルム

2017年11月7日に、インドから本学博物館の道家達將特命教授宛に1通のメールが届いた。差出人は、国際交流基金ニューデリー日本文化センターの野口晃佑氏で、半年前にチャンディガールの博物館(Government Museum and Art Gallery, Chandigarh)で開かれたセミナー“GURCHARAN SINGH—An Indian Potter in Japan”で、Singhの母校である東工大関係者の話も聞きたかったという流れになり、今回のセミナーに向けて道家教授に招待状が届いたのだ。10日後には、そのセミナーで講師を務めたロンドン芸術大学の菊池裕子准教授(現金沢美術工芸大学教授)と武蔵野美術大学の木田拓也教授が本学を訪れ、道家教授に直接依頼するという丁寧さだった。道家教授は民藝に詳しく適任だったが、最終的には高齢でもあり実現しなかった。私は横で



話を聞きながら、本学への留学中の経験を活かして著名な陶芸家になったSinghに興味を持ち、何かの機会に紹介したいと思うようになった。【参考】橋本順光、インドの陶芸家グルチャラン・シン(1)-(4)、民藝747, 52-56, 2015年3月-750, 52-57, 同6月。

2022年10月26日に、再びインドからメールが届いた。今回は本学の広報課(メディア担当)宛で、ドキュメンタリー映画製作者Nirmal Chander氏からだった。Singhが活動拠点としていた工房(Delhi Blue Pottery Trust)からの依頼で、Singhの生涯と作品を紹介したフィルムを製作中で、彼の日本での様子を記録した文書類や窯業科関連の建物を撮影したいとのことだった。即Yesと返事し、公文書室では、Singhの入学願書や在籍状況や卒業時期を記した「東京高等工業学校一覧」等を準備して、12月10日(土)の撮影に備えた。博物館の方では、前述の木田教授のインタビューや現在の無機材料工学科の建物、さらには窯業科の創設者であるGottfried Wagenerの記念碑等を案内した。余談だが、昼食の時間が遅くなり、どの店も閉まっていたので、寿司のテイクアウトになった。円形ソファで車座になっていたの食事だったが、フォークでおいしそうに頬張ってくれたのは嬉しかった。

2023年3月28日、ドキュメンタリー映像作家NirmalさんからFinally!!!という短いタイトルのメールとポスター(図①)が届いた。短文で思いを伝える技は、日本の俳句に似て、磨けば磨くほど光るようだ。



2. 湖南大学の建築学科を創設した留学生たち

中国の湖南大学は976年（北宋期）に設置された嶽麓（がくろく）書院を起源とし、1926年に大学が設置され、1929年に建築学科が創設された。この創設に関わったのが本学で学んだ2人の留学生（②劉敦楨＝劉敦楨〔1921（T10）卒〕、③柳士英＝柳飛雄〔1920（T9）卒〕）だったことから、本学の建築学系と交流が深い。2019年の建築学科創設90周年記念行事には本学建築科の④山崎鯛介准教授（現博物館教授、副館長）も招待され講演を行った。現在は、2026年の湖南大学設置100周年記念行事の準備中だそうだが、建築学科では創設者の劉氏と柳氏に加え、当時東京高等工業学校（現東工大）で建築を学んだ中国人留学生を紹介したいとのことで、山崎教授を介して公文書室に関係資料の閲覧希望が寄せられた。こうして、2023年3月3日に来室したのが湖南大学建築・計画学院の⑤沈瑤准教授だった。彼女は千葉大学で博士号を取得しただけあって、対応はスムーズに進み、卒業アルバムや試験科目表に見入っていた。

建築学科の留学生関連では、名大で博士号を取りたての李芳星氏も調査に来室した（3/28-30、日本建築学会計画系論文集87、1073、2022）。蔵前にあった東京高等工業学校は1923年〔大正12〕の関東大震災に伴う火災旋風に巻き込まれて全焼し、文書類も灰燼に帰したといわれているが、不思議と教務資料の極一部は奇跡的に残り（あるいは、持ち出され）、今日に引き継がれている。表紙に赤字で「文部省に”消失”と報告済み故、取扱注意」と記されたものもあり、興味深い。

3. ミニ展示「ナノファイバーが創る地球環境」

最近のナノファイバー開発に焦点をあてつつ、日本における化学合成繊維の歴史をたどった解説「発掘！東工大の研究

と社会貢献No.7:世界初！ナノファイバーの大量生産に成功」の刊行に合わせて、標題のような展示を大岡山キャンパスの本館1階正面の展示スペースで行った（2022.9.28～2023.3.31）⑥。公文書室が属する資料館と博物館の連携で取り組んだものだが、図書館もコラボ企画として合成繊維関連の書籍を谷岡明彦名誉教授（ナノファイバー物語の主人公）のアドバイスのもとにコメント付きで図書館入口の一番目立つところに多数並べて、私たちの企画を盛り上げてくれた⑦。

4. 学生による歴史資料の活用

公文書室が関わる講義として、次の2科目がある：(1)学部生対象の教養特論「大学史」（世話教員、博物館の山崎鯛介教授）、(2)大学院生向けの新規横断科目「東工大のキャンパスに親しむ」（世話教員、リベラルアーツ研究教育院の多久和 理実講師）。両科目とも人気があり、古いキャンパスの地図や写真、建物の竣工年や植栽の時期等に興味が出てくるので、公文書室の出番も多くなり、私たちの認知度が高まりつつあるのは嬉しい限りだ。

本学が力を入れているリベラルアーツ教育の目玉の一つとして、「教養卒論」制度がある。これは学士課程3年目の秋に課される2単位必須科目で5,000～10,000字の論文を書くことになる。その際に、公文書室の資料を利用する学生が増えつつあり、その中から2021年度、2022年度には、「大岡山周辺の遺構」や「本館中庭の校章」に関する調査研究で、優秀賞の受賞者が出てている⑧。

附属科学技術高校の卒業生が母校のアーカイブズの将来構想について相談に来てくれたのも頼もしかった。



令和4年度（2022）に受け入れた特定歴史公文書等のリスト

法人文書ファイル名	作成又は取得者
収入・支出概算要求に関する文書 平成24年度	財務部主計課予算グループ
死亡叙位叙勲 平成23年度	総務部人事課人事企画G
紫綬褒章 平成23年度	総務部人事課人事企画G
永年勤続者表彰 平成23年度	総務部人事課人事企画G
文部科学大臣表彰 平成23年度	総務部人事課人事企画G
全学科目教育協議会 平成23年度	学務部教務課教育企画G
教育推進室教育推進会議 H23年度	学務部教務課教育企画G
教育推進室教育企画会議 H23年度	学務部教務課教育企画G
評議会 平成3年度	庶務部庶務課庶務掛
部局長会議 平成3年度	庶務部庶務課庶務掛
東日本大震災対策本部 H23年度	総務部総務課総務秘書G
東日本大震災関係（取組関係）平成23年度	総務部総務課専門職
東日本大震災関係（対策本部，諸会議関係）平成23年度	総務部総務課専門職
規則制定改廃 平成3年度	庶務部庶務課法規掛
清華合同プログラム H23年度	国際部留学生交流課事業推進G
日韓理工系学部留学生事業 平成28年度	国際部留学生交流課事業推進G
赴日予備教育 平成23年度	国際部留学生交流課交流推進グループ
東日本大震災関連 復興研究シーズ 平成23年度	研究推進部研究企画課研究企画G
生命理工学部教授会 平成3年度	生命理工事務グループ
定員現員表 S45年度～H3年度	工学部等人事掛
定員削減計画 S42～57年度	工学部人事掛
教官定員融通覚書 昭和58年度～平成3年度	工学部人事掛
学校基本調査 H13 & 23年度	総務部評価・広報課広報・社会連携グループ
東日本大震災被災学生奨学金申請・採用関係 平成28年度	学務部学生支援課経済支援G
附属工業高等学校教官会議議事要録綴 昭和53～平成3年度	工学部附属工業高等学校事務部庶務掛
精密工学研究所教授会 H3年度	精密工学研究所事務掛
工業材料研究所教授会 H1 & 3年度	工業材料研究所事務掛
資源化学研究所教授会 H3年度	資源化学研究所事務掛
工学部教授会 S39, 41～58, H3年度	工学部庶務掛
原子炉工学研究所 所員会議議事録綴 昭和39～42年度	原子炉工学研究所 事務部庶務掛
原子炉工学研究所教授会議事録綴 S42～63, H1～3年度	原子炉工学研究所 事務部庶務掛
国立学校施設実態調査表 S39年度	施設課
国立学校施設実態調査表 S45～59年度	施設部企画課企画掛
国立学校施設実態調査報告書 H3年度	施設部企画課企画掛
工事写真（紡織学科旧実験工場，精密機械研究所，建築学科実験工場，機械工学科実験工場，精密工作実験室，内燃機関実験室，蒸汽々罐室其他，電機工学科実験工場，特別高圧実験室，強電実験室，弓道場）昭和10年～12年1月	工務課

法人文書ファイル名	作成又は取得者
新営工事写真（弓道場）	工務課
第一分館航空機工学科其ノ他新営工事写真 昭和14年～	工務課
教授会議事要録 S4～16, S4.6～S17.3, 29.5.12～30.12.14, 31.1.25～31.12.12, 33, 36～38, 40	[東京工業大学]
教授会議事録 S25.5～S27.7, S27.9～29.3,	[東京工業大学]
教授会資料綴 S26.12.19～29.3.22, 32, 34, 35, 38, 39, 41, 41.9.14～41.12.21	[東京工業大学]
教授会関係 27.11～29.3, S27.7.17～32.12.11, 39,	[東京工業大学]
教授総会要録 S23.1～S27.6, S27.9～29.3,	[東京工業大学]
教授総会出席者名簿 S32.1～S34.3	[東京工業大学]
教授総会議事録 S25.4～S27.6	[東京工業大学]
教授総会関係 昭27.9～29.3	[東京工業大学]
教授総会議事要録・一般書類綴 昭和33年9月10日～昭和40年8月13日	[東京工業大学]
教授会 大学院教官会議議事要録 S36, 38, 40, 41.4.13～41.7.13	[東京工業大学]
大学院教官会議 常置委員会 教授会 資料綴 昭和42年度	[東京工業大学]
理学部・工学部教授会 各研究所教授会 大学院教官会議議事要録綴 昭和42年度～昭和43年度	[東京工業大学]
教授会 大学院教官会議 複数学部制委員会議事要録綴 昭和42年度	[東京工業大学]
全学教授会 管理委員会 運営会議議事要録綴 昭和43年度	[東京工業大学]
評議員懇談会 全学教授会 東京工業大学教授会議事要録綴 昭和43年度	[東京工業大学]
全学教授会 [昭和46～54年]	[東京工業大学]
他向関係 S27, 30～35, 37, 39年度	[東京工業大学]
移転関係書類 昭和9年	[東京工業大学]
復興新営費経理関係書類4 [S7～15]	[東京工業大学]
復興設備費経理関係書類5 [S6～12]	[東京工業大学]
復興計画実施二件ウ庶務書類6 [昭和6～8年]	[東京工業大学]
復興計画実施二関スル雑件書類7	[東京工業大学]
東京工業大学 土地整理二関スル件	[東京工業大学]
寄附褒賞 二 [昭和13～15年]	[東京工業大学]
寄附褒賞 一 [昭和16年]	[東京工業大学]
寄附褒賞 昭和17年	[東京工業大学]
調査彙報 一 [昭和4年]	[東京工業大学]

公文書室 業務日誌（抄）

年	月	日	業務内容
令和 4 (2022)	4	14	& 21, 28: 田村幸男 (目白学園専務理事) 来館_ 傍系入試関連の史料調査
		5	10
	19		発掘! 東工大の研究と社会貢献 No.8 「東工大でのメッセンジャー RNA 化学合成の歴史」 発行
	23		山根 伸洋氏 (H4 年数学科卒) 来館_ 川崎 京市氏 (S7 年染料化学科卒) の卒業研究について調査
	6	6	~28: 各部署との法人文書ファイル移管関係打合せ (主として Zoom)
		9	~10: 令和 4 年度公文書館長会議 (Zoom)
		21	法人文書ファイル管理研修会 (Zoom)
	7	6	新規の横断科目「東工大のキャンパスに親しむ --- すぐかけ台編」を担当
		22	中島秀人名誉教授よりリベラルアーツ研究教育院発足時の資料受領
	8	18	~19 & 2/8~9: 田坪賢人 (大阪市立大学 哲学歴史学専攻 D3) 来館_ 古橋家文書の調査と打合せ
	9	6	大阪市史編纂所より古橋家文書 紙焼き写真帳借用, デジタル化後返却 (12/12)
		9	内閣府公文書管理課へ特定歴史公文書等の保存及び利用の状況報告に係る調査票を提出
		30	孫安石 (神奈川大学 教授)・大里浩秋 (同 名誉教授) 来館_ 留学生資料の調査
	10	13	尾中 晋 (物質理工学院 教授) 来館_ 金属工学科 80 年史編纂のための資料調査
		28	& 11/16: 社会・環境理工学院の大学院生 (YT) 来館_ 博論のため遠山啓資料の調査
	11	8	今田君子氏 (元職員家族) 宅で, 戦中・戦後の東工大の様子について聞き取り調査
		16	松田克子氏 (初代事務局長 石井茂助 [S23-4-10 没, 52 歳] の孫) への聞き取り調査
		25	立教大学教育学科 4 年生 (NY) 来館_ 卒論のための調査
	12	8	とっておきメモ帳 No. 17 「石井茂助 --- 語り伝えたい初代事務官」を発行
		20	文恒氏 (ウェン・ヘン, 本学社会工学科卒, 中国科学院自然科学史研究所準研究員) 来館_ 見学
		27	すぐかけ台キャンパス植生調査・打合せ (労務室, 戸村和弘サブリーダー)
令和 5 (2023)	2	1	~3/31: 国学院大学兼任講師 種村威史_ 手島精一資料目録作成と解題
		27	資料等審査部会 (Zoom)
	3	3	湖南大学 沈瑶准教授来館_ 東京高等工業学校建築科卒業 (大正 7 ~ 10 年頃) の中国人留学生調査
		18	~19: G5-711 号室 (中間書庫) に書架を設置
		31	「公文書室だより」No. 8 刊行

寄贈資料一覧 & 資史料館からのお知らせ

◆ 下記資料を寄贈いただきました (2022 年 4 月から 2023 年 3 月受領分)。

寄贈者	資料名
田ノ倉 美保子	アルバム (由来: S17 航空機工学科卒 竹森利清)
多久和 理実	関東大震災の絵葉書 (蔵前付近) 3 点
原健人	原 信太郎 (機械科卒, S17) 鉄道模型関係資料
坂本 由美子 (孫)	今井恭次郎 (M45, 応化) 受講ノート 19 冊
島宗義郎	大阪万博で展示された透過型電子顕微鏡写真
東京医科歯科大学	歯学部博物館 展示・収藏品目録
京都大学	京都大学創立百二十五年史
道家達将	東京工業大学 生活協同組合 50 年史資料
佐々木重雄	「名なし草」, 「直侍筆舌控」

寄贈者	資料名
蔵前工業会	蔵前ジャーナル (No. 1090-1095), 2022-2023
名古屋大学	名古屋大学の歴史 1871 ~ 2019 上, 下
千葉大学工学部 同窓会	田町・松戸・西千葉 「写真で見える七十年史」 — 千葉大学工学部のあゆみ
明治大学史史料 センター	明治大学 140 年小史
定年退職教員	名誉教授推薦調書・功績調書
宗片 比呂夫	古川静二郎 著 「ある大学教師の考えてきたこと」
中嶋公子 (孫)	滋賀重列 (初代建築学科長, 蔵前本館設計者) 資料

◆ 公文書室 (G5-7F, 705 号室) 及び百年記念館 (2F, 企画展示室) で、「発掘! 東工大の研究と社会貢献」, 「資史料館 とっておきメモ帳」を配布し, "note" にも掲載しています。「今月一枚」も Facebook にアップしています。

東京工業大学公文書室だより 第 8 号 2023 年 3 月 31 日発行

編集・発行 東京工業大学博物館資史料館部門公文書室

226-8503 神奈川県 横浜市 緑区 長津田町 4259, G5-14 TEL 045-924-5501

E-mail centshiryouto@jim.titech.ac.jp URL <http://www.cent.titech.ac.jp/indexArchives.html>